

第108期 株主通信

2019年4月1日 ▶ 2020年3月31日 証券コード：4536



世界中のひとみを守りたい

ご挨拶

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々、ご遺族の皆さまに謹んで哀悼の意を表するとともに、罹患されている方々や困難な状況におられる方々が一日も早くご快復されますよう心よりお祈りいたします。

当社では本年4月1日をもちまして、黒川 明が代表取締役会長に、谷内 樹生が代表取締役社長兼CEOに、それぞれ就任いたしました。

今後は経営の監督と執行が分離することで、ガバナンス体制のさらなる強化を目指しています。なお、おかげさまで参天製薬グループは、今年で創業130周年となります。新たな体制のもとで、その次の成長に向けた2030年度までの長期経営ビジョン「Santen 2030」に向けた活動も始めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役会長

黒川 明

代表取締役社長兼CEO

谷内 樹生

国内・海外事業の成長により 前期に引き続き増収・増益（コア営業利益）を達成

2019年度の業績および2020年度の見通し

参天製薬グループでは、長期経営ビジョンである「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現のため、市場を上回る成長、そして利益率と資本効率の維持・向上に積極的に取り組んでいます。

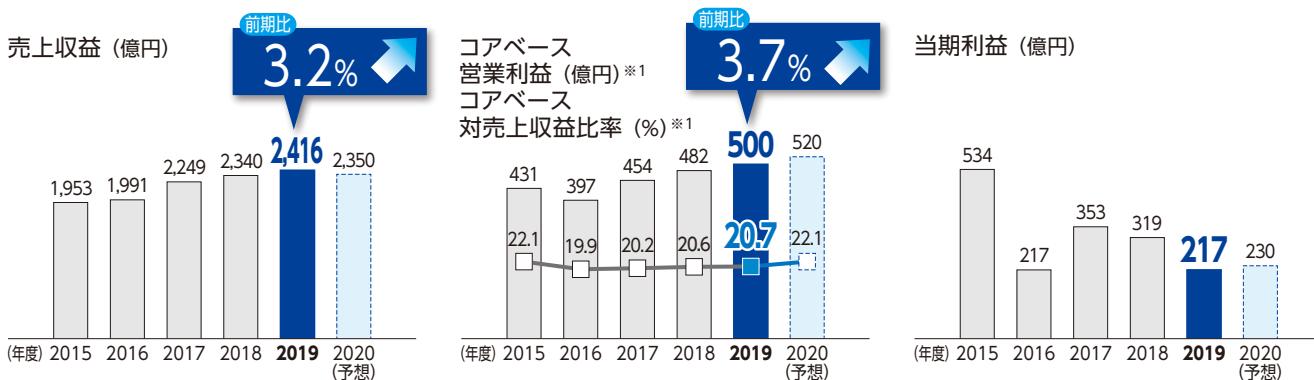
2019年度におきましては、第4四半期に新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、国内重点製品の順調な成長および海外事業の大きな成長により、売上収益は2,415億5千5百万円（対前期3.2%の増収）、本業での実力を示すコア営業利益は500億2千3百万円（同3.7%の増益）となりました。なお、IFRS（フル）ベースでの当期利益は217億1千4百万円（同32.0%の減益）となりましたが、主な要因はDE-128（PRESERFLO MicroShunt）の償却開始による費用の増加、前期の旧本社および大阪工場の売却益の反動、開発品の中止や中国合併事業にお

ける有形固定資産の減損損失です。

当社では2021年度以降の成長を見据え、製薬の枠組みを超えて眼科全体に対して技術革新やイノベーションを起こす取り組みを進めています。1日4回から2回に点眼回数を減らすことで患者さんの負担を軽減させる抗アレルギー点眼剤「アレジオンLX点眼液0.1%」を11月に日本で発売した一方で、米国では2020年度の発売を目指して緑内障手術治療に用いられるデバイスDE-128（PRESERFLO MicroShunt）の開発を進めています。また、遺伝子治療や細胞治療への取り組みを始めるとともに、Googleを傘下に持つAlphabet社の子会社でライフサイエンス関連の事業を手掛けるVerily社との合併会社を設立し、デジタルテクノロジーによる人々の目の健康の向上を目指した取り組みも始めています。

2020年度におきましても、新型コロナウイルス

連結財務ハイライト



※1 IFRSベースから一部の収益・費用（製品に係る無形資産償却費、その他の収益、その他の費用、金融収益、金融費用）を控除した、コアベース（経常的な業績を示す）による数値です。

感染症の影響による受診抑制などにより、売上収益は対前期2.7%減の2,350億円を予想しています。一方でコア営業利益は、4期連続の増益となる同4.0%増の520億円を予想しています。これは、売上収益がマイナスの影響を受ける状況下でも、長期的な成長のための研究開発活動、事業開発投資、および設備投資については継続しつつ、経費の管理、活動の選別を徹底することで、実現を目指すものです。

配当方針

参天製薬グループでは、株主様への利益還元を経営上の重要課題と位置付け、今後も、安定的・持続的な配当を実施していく考えです。2020年度においては、中間配当14円、期末配当14円の計28円、1円増配を予定しています。

これからも参天製薬グループは、基本理念「天機に参与する」に基づき、世界中の患者さんや眼科医から必要とされる製品・サービスの提供を通じ、眼科に特化した企業として世界の眼科医療に貢献し、持続的な成長を目指してまいりますので、株主の皆さまには、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に関する取り組み

新型コロナウイルスの感染への継続的な対策が必要とされる中、参天製薬グループにとっての最大の優先事項は、眼科治療に関する製品・サービスを世界中の患者さんにお届けし続けることです。次に社会に貢献するライフサイエンス企業の一員として、ウイルス拡散につながる活動を自粛すること、そしてこのような非常事態においても、将来の眼科医療のイノベーションに向けた取り組みを継続することです。これらを基本方針として、日本、中国、アジア、欧州、米州等、当社の世界各拠点において、それぞれの地域の規制やガイドランスに則り、最大限の策を講じています。

詳細については、当社ホームページ掲載をご覧ください。

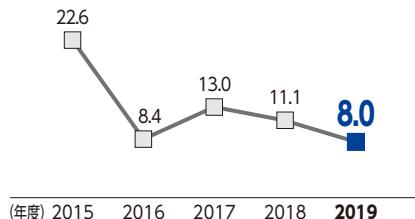
2019年度決算を含むIR情報

<https://www.santen.co.jp/ja/ir/>

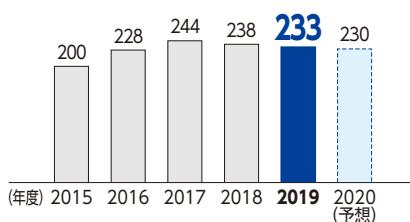
新型コロナウイルス感染症に関する取り組み

<https://www.santen.co.jp/ja/about/Infection19/>

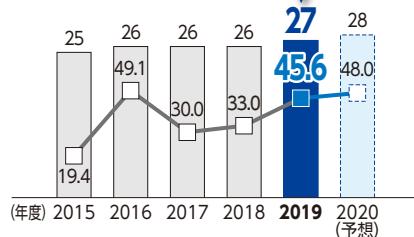
ROE (%)※2



研究開発費 (億円)



1株当たり配当金 (円)
配当性向 (%)



※2 ROEの2020 (予想) 数値につきましては、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響が不透明であることから公表を見送ります。

開発状況（臨床段階）

■ 緑内障領域 ■ 角結膜疾患領域 ■ 網膜・ぶどう膜疾患領域 ■ その他疾患領域

2020年4月時点

開発コード	一般名	効能・効果	地域	臨床試験*			申請	承認	発売
				フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3			
DE-111	タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩	緑内障・高眼圧症	中国	■					
DE-117 (エイベリス)	オミデネパグ インプロピル	緑内障・高眼圧症	米国	■					
			日本	■					2018年11月
			アジア	■					2019年12月
DE-126	sepetaprost	緑内障・高眼圧症	米国	■ フェーズ2b					
			日本	■ フェーズ2b					
DE-128	緑内障用デバイス	緑内障	米国	■ フェーズ2/3					
			欧州	■					2019年1月
			アジア	■					2020年3月
DE-130A	ラタノプロスト	緑内障・高眼圧症	欧州	■					
			アジア	■					
DE-076C	シクロスポリン	春季カタル	欧州	■					2018年10月
			アジア	■					2019年8月
			その他	■					2019年11月
DE-114A	エピナスチン塩酸塩	アレルギー性結膜炎	日本	■					2019年11月
DE-109	シロリムス	ぶどう膜炎	米国	■					
			日本	■					
			欧州	■					
			アジア	■					2015年4月
DE-127	アトロピン硫酸塩	近視	日本	■ フェーズ2/3					
			アジア	■					
MD-16	眼内レンズ	白内障	日本	■					2019年11月

※1 臨床試験：フェーズ1からフェーズ3までの3段階で実施されます。フェーズ1では、少数の健康な志願者を対象に安全性を確認します。続くフェーズ2では、少数の患者さんを対象に適切な投与量や投与方法を検討・確認します。最後のフェーズ3では、多数の患者さんを対象に安全性・有効性を検証します。

※2 DE-122（一般名：carotximab）は、滲出型加齢黄斑変性を対象とした前期第Ⅱ相試験で主要評価項目において期待した効果を示さなかったため、2020年3月に開発を中止しました。

「世界で存在感のある スペシャリティ・カンパニー」の実現

- ◆ 真の顧客ニーズ※を深く考え
- ◆ 競合企業に対する明確な強みをもって
- ◆ グローバルな競争力・存在感を持つ会社

※ 真の顧客ニーズ：患者さん・生活者・医師・医療従事者の未充足ニーズ

国内での專業基盤・競争力強化

海外での專業基盤構築・強化

2011

2012

2013

2014.05
米Merck社製品を譲受

緑内障・高眼圧症治療剤の製品ラインアップを拡充するとともに、海外でのプレゼンスが向上しました。



2014

2015.05
抗リウマチ薬
事業を承継

眼科領域に完全に特化すべく、当時プレゼンスのあった抗リウマチ薬事業を売却しました。

2015

グローバルの新製品価値最大化

2016

2016.08
DE-128を開発する
InnFocus社を買収

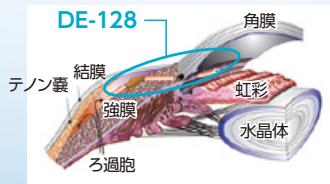
DE-128は房水の流出を促進するマイクロチューブで、緑内障の手術治療で使用されるデバイスです。



2017

2018.11
エイベリス点眼液を発売

新しい作用機序を持つ、緑内障・高眼圧症治療剤を日本で発売しました。



2018

2019.04
Glaukos社と
DE-128の米国限定
独占販売元契約

2020年度の上市に向けてDE-128の米国での販売体制を整備しました。

2019

2020

2020.01
Be He@lthy,
Be Mobileの支援を開始

Be He@lthy, Be Mobileは、WHOと国際電気通信連合 (ITU) との取り組みで、携帯電話などデジタルデバイスを用いて、非伝染病予防などの啓発を行っています。世界人口の約97%が携帯電話の電波範囲内で生活するともいわれ、アプリでのコンテンツ配信をはじめ、デジタルヘルス領域の拡大を目指しています。当社はITUとのパートナーシップのもと、眼科領域におけるBe He@lthy, Be Mobileをサポートしていきます。

2020.02
Verily社と合併会社設立を発表

Googleを傘下を持つAlphabet社の子会社で、ライフサイエンス関連の事業を手掛けるVerily社。この新たな合併事業では、Verily社の最先端のデジタルテクノロジーと、当社のグローバルで工業化・商業化を行うための眼科事業基盤を融合し、眼科医療における独創的なイノベーションを追求していきます。

Santen 2030を策定

人々のQOLに大きな影響を及ぼす眼科領域。

世界ではいまだ少なくとも22億人が視力障がいや失明に至っており、その22億人のうち10億人以上は未治療、もしくは未然に防げたとされています。

加えて、世界的な高齢化やデジタルデバイスの使用等により、目に不具合を抱える人々の増加が見込まれます。

WHO(世界保健機関)が発表した「World report on vision」によると私たちの暮らす社会は「見える」ことを前提に作られておりあらゆる感覚の中で「視覚」は最も重要だと指摘されています。

このような環境のなか、眼科に特化した企業としてどうその責任を果たすべきかを考え、基本理念に基づき参天グループが目指す理想の世界と、2030年とその先に向けたSanten 2030を策定しました。

Santen 2030では、私たちが目指す理想の世界を実現するために、2030年にありたい姿と、達成に向けた戦略を掲げています。

当社は、眼科領域におけるスペシャリティ・カンパニーとして人々の目の健康に関する社会的な課題の解決に積極的に取り組んでまいります。



詳しくは当社ホームページの
リリースをご覧ください。

<基本理念>

天機に参与する

WORLD VISION : Santen が目指す理想の世界

Happiness with Vision

世界中の一人ひとりが、「見る」を通じた体験により、
それぞれの最も幸福な人生を実現する世界を創り出したい。

Santen's VISION : Santen のありたい姿

Become A Social Innovator

Santenは、世界中の技術や組織・人材をつなぎ、
社会にイノベーションをもたらすことで、
「見る」を通じた人々の幸せを実現する。

戦略

眼科医療への貢献

健康な目の追求

共生社会の実現

自覚症状に乏しい一方、
放置すると失明も

早期発見・治療が重要、
多くがコントロール可能

治療が生涯に亘り、
幅広い選択肢が必要

意外と身近な緑内障!



出典: *Ophthalmology*.121:2081-90.2014

国内中途失明原因

第1位

出典: *Jpn J ophthalmol*.63:26-33.2019

年代別の緑内障患者数(国内)



出典: 日本緑内障学会多治見疫学調査報告書, 2012より

眼科のリーディングカンパニーとして、患者さん・眼科医とともに歩んでいます

疾患啓発から治療継続支援までトータルな取り組みで、患者さんのQOL向上と事業成長を実現

幅広い製品ラインナップと未充足ニーズに応える研究開発

医療現場のニーズに応える幅広い製品群の提供により、国内医療用眼科薬市場シェアNo1^{※1}を獲得しています。また、世界初の作用メカニズムを持つ抗緑内障剤や、患者さんの負担軽減につながる手術用デバイスなど、新たな治療オプションに加え、点眼補助具など、未充足ニーズに応えるべく様々な方面から開発に取り組んでいます。

※1 出典: Copyright © 2020 IQVIA. 無断転載禁止
IQVIA JPM 2019.4-2020.3を基に参天分析

早期発見・早期治療が大切な緑内障

緑内障は目の中の水(房水)の状態のバランスが崩れることによる眼圧上昇などで、視神経が障害されて徐々に視野が狭くなる病気で、中高年に多く発症します。病態の進行は非常に遅く、片目の視野が欠けても、もう一方の目で情報を補えるため、かなり進行するまで

自覚症状がほとんどありません。一方で、一度失った視野は元に戻らず、失明に至ることもあり、早期の発見と治療がとても重要です。治療は眼圧降下が基本となり、眼圧のコントロールを続けることで、病気の進行を抑えることができます。

1 正常な見え方



ランドセルを背負った女の子と男の子が横断歩道を渡っています。

2 すこし症状が進んだ状態



右端にいた男の子の姿が見えていません。

3 さらに症状が進んだ状態



子供たちのほか、左上の標識も見えなくなっています。

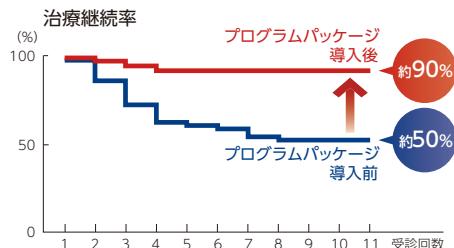
社外と連携した啓発活動を推進

薬局を通じた継続治療への啓発活動、企業・団体・自治体と連携し、「サンテン・オプティナビ」^{※2}や病気の見え方シミュレーションを用いて疾患の早期発見と治療につなげる活動などを行っています。目の健康への注目が社会全体で高まるよう、より一層活動を充実させていきます。

※2 眼科専門医監修のもと開発した目の健康を簡単にセルフチェックできるウェブサイト

継続通院をプログラムパッケージでサポート

緑内障は自覚症状が少ないため、治療を途中でやめてしまう患者さんが多く、治療継続率の向上が課題です。当社では、2016年から医療機関に対して独自の緑内障治療継続プログラムパッケージを提供しています。先行実施した11施設では、治療継続率が約50%から約90%へと大幅に向上しました。



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

単元株式数 100株

公告方法

電子公告

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL : <https://www.santen.co.jp/jp/pn>

証券コード 4536

上場証券取引所 東京証券取引所

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

〒541-8502

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

TEL : 0120-094-777

会社概要 (2020年3月31日現在)

社名 参天製薬株式会社
本社 〒530-8552
大阪市北区大深町4番20号
創業 1890年
設立 1925年
資本金 8,366百万円
工場 能登、滋賀、他
研究所 奈良研究開発センター、他
従業員数 4,108名 (連結)

参天製薬株式会社



FSC® 認証紙と植物油
インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

株式に関するお手続き等について

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行の本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でのお支払いいたします。

お問い合わせ先

参天製薬株式会社
企画本部IR室

〒530-8552 大阪市北区大深町4番20号

TEL : 06-6321-7000 (代表)

Email : ir@santen.com

URL : <https://www.santen.co.jp>



ホームページに
最新の情報を掲
載しております。
ぜひご覧ください。